



TITLE:

# 合同zeta函数に関するArtin-Tate公式について (代数的整数論とその周辺)

AUTHOR(S):

諏訪, 紀幸

---

CITATION:

諏訪, 紀幸. 合同zeta函数に関するArtin-Tate公式について (代数的整数論とその周辺). 数理解析研究所講究録 2001, 1200: 13-25

ISSUE DATE:

2001-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/40922>

RIGHT:

# 合同 zeta 函数に関する Artin-Tate 公式について

諏訪紀幸 中央大学理工学部

研究集会では (Some remarks on the Artin-Tate formula for diagonal hypersurfaces) と題して講演したが, 実際にはより一般の代数多様体に対する Artin-Tate 公式について解説した. 本稿では第 3 節で Artin-Tate 公式の導出の粗筋を, 特に de Rham-Witt complex に関する結果がどこに利いているかを主眼に説明する. 第 1 節では合同 zeta 函数の理論の中での Artin-Tate 公式の位置について, 第 2 節では Artin-Tate 公式を記述し証明するための道具立てについて手短かに復習する. 第 4 節で diagonal hypersurface に関する幾つかの結果を述べる. 第 4 節の詳細については [12] を参照されたい.

## 記号.

scheme の上の層はすべて étale 位相で考える. したがって, 層の cohomology はすべて étale cohomology を意味する.

$M$  を可換群とする.  $M$  の torsion subgroup を  $M_{\text{tors}}$  で, 剰余群  $M/M_{\text{tors}}$  を  $M/\text{tors}$  で表わす.

$v$  を  $v(q) = 1$  によって正規化された  $\bar{\mathbb{Q}}_p$  の  $p$  進加法付値とする. また,  $|\cdot|_l$  を  $|\cdot|_l = \frac{1}{l}$  によって正規化された  $\bar{\mathbb{Q}}_l$  の  $l$  進乗法付値とする.

## 1. 歴史

1.1. (Weil 予想)  $X$  を有限体  $k = \mathbb{F}_q$  の上の代数多様体とする.  $X$  の合同 zeta 函数  $Z(X/k, t)$  は

$$Z(X/k, t) = \exp \left[ \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\#X(\mathbb{F}_{q^n})}{n} t^n \right]$$

によって定義された. 変数変換  $t = q^{-s}$  によって  $Z(X/k, t)$  から Hasse-Weil の zeta 函数

$$\zeta(X, s) = \prod_{x \in X_0} \frac{1}{1 - \#k(x)^{-s}} \quad (X_0 \text{ は } X \text{ の閉点全体})$$

を得る.

Riemann-Weil 仮説は  $\zeta(X, s)$  の極と零点の分布に関する定理であるが, 振り返ってみると,  $X$  が非特異射影的で  $\dim X = N$  であるとき,

- (1)  $Z(X/k, t)$  は  $t$  の有理函数;
- (2)  $Z(X/k, t)$  は

$$Z(X/k, t) = \frac{P_1(t) \cdots P_{2N-1}(t)}{P_0(t) \cdots P_{2N}(t)}, \quad P_i(t) = P_i(X; t) = \prod_j (1 - \alpha_{ij}t), \quad |\alpha_{ij}| = q^{\frac{i}{2}}$$

と因数分解される. さらに,  $P_i(X; t)$  は  $t$  の整係数多項式,

が Weil の研究を端緒として Grothendieck, Deligne によって示された。周知のように,  $P_i(X; t)$  は線型代数の言葉で記述される。実際,  $\Phi$  を  $X$  の  $k$  の上の相対 Frobenius 写像,  $H^*(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l)$  を  $l$  進 étale cohomology 群とすれば,

$$P_i(X; t) = \det[1 - \Phi^* t; H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l)]$$

が成立する。また,  $H^*(X/W)_K$  を crystalline cohomology 群とすれば,

$$P_i(X; t) = \det[1 - \Phi^* t; H^i(X/W)_K]$$

が成立する。

1.2. (Tate 予想)  $\rho_r$  を  $\zeta(X, s)$  の  $s = r$  における極の位数とすれば,  $\rho_r$  は  $q$  の  $P_{2r}(X; t) = 0$  の逆根としての重複度に等しい。Tate [13] は次のように  $\rho_r$  を algebraic cycle と関連付けて議論した。

$Z^r(X)$ ,  $Z^r(X_{\bar{k}})$  をそれぞれ  $X$  あるいは  $X_{\bar{k}}$  の余次元  $r$  の algebraic cycle の群とする。このとき, cycle 写像とよばれる準同型  $\gamma: Z^r(X_{\bar{k}}) \rightarrow H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l(r))$  が定義される。明らかに  $\gamma$  の  $Z^r(X)$  による像は  $H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l(r))^{\text{Gal}(\bar{k}/k)}$  に含まれる。Tate 予想は逆が成立することを主張する:  $\Phi^*$  の  $H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l(r))$  の上への作用は半単純で,  $\rho_r$  は  $Z^r(X)$  の  $\gamma$  よる像によって生成される  $H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l)$  の部分空間の次元に等しい。

今の所, Tate 予想は主立った所では

- (1)  $X$  が Abel 多様体,  $r = 1$  (Tate [14]);
  - (2)  $X$  が K3 曲面で  $\widehat{\text{Br}}_{X/k}$  が finite height,  $r = 1$  (Nygaard, Ogus);
  - (3)  $X$  が次元と次数に関する幾つかの条件をみたす Fermat 多様体で  $r = N/2$  (塩田, 桂, 青木 [8, 9, 10, 1])
- の場合に示されている。

1.3. (Artin-Tate 公式) 次に,  $\zeta(X, s)$  の  $s = r$  における特殊値が問題になるが, 最初,  $N = 2$ ,  $r = 1$  の場合に Artin と Tate によって特殊値の公式が予想され, Tate [15] によって  $p$  と素な部分に対して  $l$  進 étale cohomology を用いて証明された。  $p$  部分に対しては  $l$  進 étale cohomology の代わりに  $p$  進 flat cohomology を用いることによって Milne [6] によって証明された。一般次元の場合は, Milne [7] が Illusie によって定義された logarithmic Hodge-Witt cohomology を用いて Artin-Tate 公式を一般化した。第 3 節で Milne の結果を改良した形で示す。

## 2. 道具と準備

$k$  を体,  $X$  を  $k$  の上の非特異射影多様体とする。

2.1. (étale cohomology)  $l$  を  $k$  の標数と異なる素数とする。

$$H^i(X, \mathbb{Z}_l(r)) = \varprojlim_n H^i(X, \mu_{l^n}^{\otimes r})$$

と定義した。

$k$  が代数的閉体なら,  $H^i(X, \mathbb{Z}_l(r))$  は有限型  $\mathbb{Z}_l$  加群.

$$H^i(X, \mathbb{Q}_l(r)) = H^i(X, \mathbb{Z}_l(r)) \otimes_{\mathbb{Z}_l} \mathbb{Q}_l$$

と定義した. また, 殆ど全ての素数  $l$  に対して  $H^i(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}} = 0$  となる (Gabber の定理).

2.2. (de Rham cohomology) 正則微分形式の複体  $\Omega_{X/k}^*$  の hypercohomology として de Rham cohomology  $H_{DR}^*(X/k)$  を定義した. 定義から spectral sequence

$$E_1^{ij} = H^j(X, \Omega_X^i) \Rightarrow H_{DR}^{i+j}(X/k)$$

(Hodge spectral sequence) が存在する.  $\dim_k H^j(X, \Omega_{X/k}^i)$  を  $X$  の  $(i, j)$  Hodge number とよび,  $h^{ij}(X)$  で表わす.

以下,  $k$  は標数  $p > 0$  の完全体であると仮定する.

2.3. (crystalline cohomology と de Rahm-Witt complex [4, 5])  $H^*(X/W)$  によって  $X$  の crystalline cohomology を表わす.  $H^*(X/W)/\text{tors}$  は  $F$ -crystal の構造をもつ. また, pro-sheaf の複体

$$W\Omega_X^* : W\mathcal{O}_X \xrightarrow{d} W\Omega_X^1 \xrightarrow{d} W\Omega_X^2 \xrightarrow{d} \dots$$

(de Rham-Witt complex) が存在して  $H^*(X/W)$  は  $W\Omega_X^*$  の hepercohomology に同型となる (Deligne-Illusie).  $W\mathcal{O}_X$  の上の Frobenius 写像  $F$ , Verschiebung 写像  $V$  は  $W\Omega_X^*$  の上に延長され,  $FV = VF = p$ ,  $FdV = d$  が成立する. spectral sequence

$$E_1^{ij} = H^j(X, W\Omega_X^i) \Rightarrow H^*(X/W).$$

(slope spectral sequence) は  $E_1$  で退化する. 特に, 直和分解

$$H^n(X/W)_K = \bigoplus_{i+j=n} H^j(X, W\Omega_X^i)_K$$

を得る. さらに,

$$H^j(X, W\Omega_X^i)_K = H^{i+j}(X/W)_K^{[i, i+1]}$$

次に,

$$\begin{aligned} Z^i &= \text{Ker}[d : H^j(X, W\Omega_X^i) \rightarrow H^j(X, W\Omega_X^{i+1})], \\ B^i &= \text{Im}[d : H^j(X, W\Omega_X^{i-1}) \rightarrow H^j(X, W\Omega_X^i)] \end{aligned}$$

とおく. また,

$$\begin{aligned} V^{-\infty} Z^i &= \bigcap_{n=0}^{\infty} \text{Ker}[dV^n : H^j(X, W\Omega_X^i) \rightarrow H^j(X, W\Omega_X^{i+1})], \\ F^{\infty} B^i &= \bigcup_{n=0}^{\infty} \text{Im}[F^n d : H^j(X, W\Omega_X^{i-1}) \rightarrow H^j(X, W\Omega_X^i)] \end{aligned}$$

とおく. このとき,  $V^{-\infty}Z^i$ ,  $F^\infty B^i$  は  $F$ ,  $V$  で安定な  $H^j(X, W\Omega_X^i)$  の部分  $W$  加群で,

$$B^i \subset F^\infty B^i \subset V^{-\infty}Z^i \subset Z^i$$

さらに,  $V^{-\infty}Z^i/F^\infty B^i$  は有限型  $W$  加群. また, 有限次元の unipotent formal group  $\Psi^{ji}$  が存在して  $H^j(X, W\Omega_X^i)/V^{-\infty}Z^i$  は  $\Psi^{ji}$  の Cartier 加群に同型となる.  $V^{-\infty}Z^i/F^\infty B^i$  を  $\text{Heart}^i H^j(X, W\Omega_X^*)$  で,  $d : H^j(X, W\Omega_X^i)/V^{-\infty}Z^i \rightarrow F^\infty B^{i+1}$  を  $\text{Domino}^i H^j(X, W\Omega_X^*)$  で表わす.

$$T^{ij}(X) = \dim \text{Domino}^i H^j(X, W\Omega_X^*) = \dim \Psi^{ji}$$

と定義した (Illusie-Raynaud). また,

$$\begin{aligned} h_W^{ij}(X) = & \dim_k H^j(X, W\Omega_X^i)/(\text{tors} + V) + \dim_k H^{j+1}(X, W\Omega_X^{i-1})/(\text{tors} + F) \\ & + T^{i,j}(X) - 2T^{i-1,j+1}(X) + T^{i-2,j+2}(X) \end{aligned}$$

と定義した (Ekedahl).  $h_W^{ij}(X)$  を  $X$  の  $(i, j)$  Hodge-Witt number とよぶ.

**補註 2.4.** (1)  $H^*(X/W)$  が torsion-free で, (2) Hodge spectral sequence が  $E_1$  で退化するとき,  $X$  は Mazur-Ogus 型であるという.  $X$  が Mazur-Ogus 型なら, 各  $(i, j)$  に対して  $h_W^{ij} = h^{ij}$  が成立する (Ekedahl の定理). 例えば, Abel 多様体, 射影空間の中の smooth complete intersection は Mazur-Ogus 型.

**2.5.** (logarithmic Hodge-Witt cohomology [5], [3]) 対数微分形式によって生成される  $W_n\Omega_X^i$  の部分層を  $W_n\Omega_{X,\log}^i$  で表わす.

$$H^i(X, \mathbb{Z}_p(r)) = \varprojlim_n H^{i-r}(X, W_n\Omega_{X,\log}^r)$$

と表わすことにする.  $k$  の上の pro-algebraic group  $\underline{H}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))$  が存在して,

$$H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_p(r)) = \underline{H}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})$$

となる.  $\underline{H}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))$  の unipotent part を  $\underline{U}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))$  で, étale part を  $\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))$  で表わせば, pro-algebraic group の完全列

$$0 \rightarrow \underline{U}^i(X, \mathbb{Z}_p(r)) \rightarrow \underline{H}^i(X, \mathbb{Z}_p(r)) \rightarrow \underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r)) \rightarrow 0$$

を得る.

$$\dim \underline{U}^i(X, \mathbb{Z}_p(r)) = \dim \text{Domino}^{r-1} H^{i-r}(X, W\Omega_X^*)$$

が成立する. また,  $k$  が代数的閉体なら

$$\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(k) = \text{Ker}[F - 1 : \text{Heart}^i H^j(X, W\Omega_X^*) \rightarrow \text{Heart}^i H^j(X, W\Omega_X^*)]$$

したがって,  $\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(k)$  は有限型  $\mathbb{Z}_p$  加群.

以下,  $k = \mathbb{F}_q$  を標数  $p$  の有限体,  $\Gamma = \text{Gal}(\bar{k}/k)$  とし,  $\varphi \in \Gamma$  を  $k = \mathbb{F}_q$  の上の Frobenius 写像とする.  $X$  を  $k$  の上の非特異射影多様体とする.

$\Gamma$  加群  $M$  に対して  $M^\Gamma = \text{Ker}[1 - \varphi : M \rightarrow M]$ ,  $M_\Gamma = \text{Coker}[1 - \varphi : M \rightarrow M]$  と記す.

**補題 2.6.**  $P_i(X; t) = \prod_{\alpha} (1 - \alpha t)$  とおく. このとき,

$$\det[1 - \varphi t; H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l(r))] = \begin{cases} \prod_{\alpha} \left(1 - \frac{q^r}{\alpha}\right) & (l \neq p) \\ \prod_{v(\alpha)=r} \left(1 - \frac{q^r}{\alpha}\right) & (l = p) \end{cases}$$

**補題 2.7.**  $i \neq 2r$  と仮定する. このとき,  $H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))^\Gamma$ ,  $H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_\Gamma$  は有限群. 特に,  $H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))^\Gamma$  は  $H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^\Gamma$  に同型. さらに,

$$\begin{aligned} |H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_p(r))_{\text{tors}}^\Gamma| &= q^{T^{r-1, i-r}(X)} |\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}^\Gamma|, \\ |H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_p(r))_\Gamma| &= |\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_\Gamma| \end{aligned}$$

が成立する.

**証.** Riemann-Weil 仮説から,  $1 - \varphi$  は  $H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))/\text{tors}$  の上で単射. したがって, 完全列

$$0 \rightarrow H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}} \rightarrow H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r)) \rightarrow H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))/\text{tors} \rightarrow 0$$

に  $1 - \varphi$  をほどこすことによって同型

$$H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))^\Gamma \xrightarrow{\sim} H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^\Gamma$$

および完全列

$$0 \rightarrow H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}, \Gamma} \rightarrow H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_\Gamma \rightarrow (H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))/\text{tors})_\Gamma \rightarrow 0$$

を得る. また,  $(H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))/\text{tors})_\Gamma$  は有限群.  $l \neq p$  の場合, これで結論を得る.

$l = p$  の場合.  $H^1(\Gamma, \underline{U}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})) = 0$  なので, pro-algebraic group の完全列

$$0 \rightarrow \underline{U}^i(X, \mathbb{Z}_p(r)) \rightarrow \underline{H}^i(X, \mathbb{Z}_p(r)) \rightarrow \underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r)) \rightarrow 0$$

から, 完全列

$$0 \rightarrow \underline{U}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(k) \rightarrow H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_p(r))^\Gamma \rightarrow \underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})^\Gamma \rightarrow 0$$

および同型

$$H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_p(r))_\Gamma \xrightarrow{\sim} \underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_\Gamma$$

を得る.  $\dim \underline{U}^i(X, \mathbb{Z}_p(r)) = T^{r-1, i-r}$  なので,

$$|\underline{U}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(k)| = q^{T^{r-1, i-r}}$$

が成立する.

さらに,  $\underline{U}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})$  が torsion group なので, 完全列

$$0 \rightarrow \underline{U}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(k) \rightarrow H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_p(r))_{\text{tors}}^{\Gamma} \rightarrow \underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}^{\Gamma} \rightarrow 0$$

を得る. これから上記と併せて結論を得る.

**補題 2.8.**  $i \neq 2r$ ,  $2r+1$  と仮定する.  $H^i(X, \mathbb{Z}_l(r))$  は有限群で,

$$|H^i(X, \mathbb{Z}_l(r))| = |H^{i-1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\Gamma}| |H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^{\Gamma}|$$

**証.** Hochschild-Serre の spectral sequence

$$E_2^{ij} = H^i(\Gamma, H^j(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))) \Rightarrow H^{i+j}(X, \mathbb{Z}_l(r))$$

から得られる完全列

$$0 \rightarrow H^{j-1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\Gamma} \rightarrow H^j(X, \mathbb{Z}_l(r)) \rightarrow H^j(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^{\Gamma} \rightarrow 0$$

に注意すればよい.

**補題 2.9.**  $H^{2r}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}$ ,  $H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}$  は有限群. 特に,

$$|H^{2r}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}| = |H^{2r-1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\Gamma}| |H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^{\Gamma}|$$

さらに,

$$|H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_p(r))_{\text{tors}}^{\Gamma}| = q^{T^{r-1, i-r}(X)} |\underline{D}^{2r}(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}^{\Gamma}|$$

**証.** Hochschild-Serre の spectral sequence から得られる完全列

$$0 \rightarrow H^{j-1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\Gamma} \rightarrow H^j(X, \mathbb{Z}_l(r)) \rightarrow H^j(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^{\Gamma} \rightarrow 0$$

を考えて,  $H^{2r}(X, \mathbb{Z}_l(r))$ ,  $H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))$  が有限型  $\mathbb{Z}_p$  加群であることが従う. さらに,  $H^{2r-1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\Gamma}$  が有限群なので,

$$0 \rightarrow H^{2r-1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\Gamma} \rightarrow H^{2r}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}} \rightarrow H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^{\Gamma} \rightarrow 0$$

は完全列.

### 3. Artin-Tate 公式

$k = \mathbb{F}_q$  を標数  $p$  の有限体,  $\Gamma = \text{Gal}(\bar{k}/k)$  とし,  $X$  を  $k$  の上の次元  $N$  の非特異射影多様体とする

**補題 3.1.**  $P_i(X; t) = \prod_{\alpha} (1 - \alpha t)$  とおく. このとき,

$$\sum_{v(\alpha) < r} (r - v(\alpha)) = \sum_{j=0}^{r-1} (r - j) h_W^{j, i-j}(X) - T^{r-1, i-r+1}(X).$$

証.  $F$ -isocrystal  $H^i(X/W)_K$  の slope は  $\{v(\alpha)\}_\alpha$  で与えられる (Manin の定理). ここで,  $H^{i-j}(X, W\Omega_X^j)_K = H^i(X/W)_K^{[j, j+1]}$  なので,

$$\begin{aligned}\dim_k H^{i-j}(X, W\Omega_X^j)/(\text{tors} + V) &= \sum_{j \leq v(\alpha) < j+1} (j+1 - v(\alpha)), \\ \dim_k H^{i-j}(X, W\Omega_X^j)/(\text{tors} + F) &= \sum_{j \leq v(\alpha) < j+1} (v(\alpha) - j)\end{aligned}$$

したがって,

$$\begin{aligned}& \sum_{j=0}^{r-1} (r-j) h_W^{j, i-j}(X) - T^{r-1, i-r+1}(X) \\ &= \sum_{j=0}^{r-1} \left\{ (r-j) \dim_k H^{i-j}(X, W\Omega_X^j)/(\text{tors} + V) + (r-j-1) \dim_k H^{i-j}(X, W\Omega_X^j)/(\text{tors} + F) \right\} \\ &= \sum_{j=0}^{r-1} \left\{ (r-j) \sum_{j \leq v(\alpha) < j+1} (j+1 - v(\alpha)) + (r-j-1) \sum_{j \leq v(\alpha) < j+1} (v(\alpha) - j) \right\} \\ &= \sum_{v(\alpha) < r} (r - v(\alpha)).\end{aligned}$$

定理 3.2. (Artin-Tate 公式 I)  $i \neq 2r$  と仮定する. このとき,

$$\begin{aligned}|P_i(X; q^{-r})|_l^{-1} &= \\ &\begin{cases} \frac{|H^{i+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}|}{|H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^F| |H^{i+1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^F|} & (l \neq p) \\ q^{-\sum_{j=0}^{r-1} (r-j) h_W^{j, i-j}(X)} \frac{|H^{i+1}(X, \mathbb{Z}_p(r))_{\text{tors}}|}{|\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}^F| |\underline{D}^{i+1}(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}^F|} & (l = p) \end{cases}\end{aligned}$$

が成立する.

証.  $l \neq p$  のとき,

$$|P_i(X; q^{-r})|_l^{-1} = \left| \prod_\alpha \left(1 - \frac{q^r}{\alpha}\right) \right|_l^{-1} = \left| \det[1 - \varphi; H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l(r))] \right|_l^{-1}$$

ここで,

$$\left| \det[1 - \varphi; H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l(r))] \right|_l^{-1} = |(H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))/\text{tors})_F|$$

さらに,  $H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}$  が有限群なので,

$$\frac{1}{|(H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))/\text{tors})_F|} = \frac{|H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_F^F|}{|H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_F|}$$

したがって, 補題 2.7 と補題 2.8 あるいは補題 2.9 から結論を得る.



$l = p$  のとき,

$$\left| \prod_{v(\alpha)=r} \left(1 - \frac{q^r}{\alpha}\right) \right|_p^{-1} = \left| \det[1 - \varphi; H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_p(r))] \right|_p^{-1}$$

ここで,

$$\left| \det[1 - \varphi; H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_p(r))] \right|_p^{-1} = |(H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))/\text{tors})_l| = |(\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})/\text{tors})_l|$$

さらに,  $\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}$  が有限群なので,

$$\frac{1}{|(\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})/\text{tors})_l|} = \frac{|\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_l^r|}{|\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_l|}$$

また,  $v(\alpha) < r$  なら  $v(1 - \frac{\alpha}{q^r}) = v(\alpha) - r$ ,  $v(\alpha) > r$  なら  $v(1 - \frac{\alpha}{q^r}) = 0$  なので,

$$\begin{aligned} |P_i(X; q^{-r})|_p^{-1} &= \left| \prod_{v(\alpha) < r} \left(1 - \frac{q^r}{\alpha}\right) \right|_p^{-1} \left| \prod_{v(\alpha)=r} \left(1 - \frac{q^r}{\alpha}\right) \right|_p^{-1} \left| \prod_{v(\alpha) > r} \left(1 - \frac{q^r}{\alpha}\right) \right|_p^{-1} \\ &= q^{-\sum_{v(\alpha) < r} (r - v(\alpha))} \left| \prod_{v(\alpha)=r} \left(1 - \frac{q^r}{\alpha}\right) \right|_p^{-1} \end{aligned}$$

したがって, 補題 2.7, 補題 2.8 あるいは補題 2.9 に補題 3.1 を併せて結論を得る.

3.3.  $i = 2r$  の場合, Tate [15] の工夫に従って議論を進める.

$\epsilon_l^{2r} : H^{2r}(X, \mathbb{Z}_l(r)) \rightarrow H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))$  を  $1 \in \mathbb{Z}_l = H^1(k, \mathbb{Z}_l)$  との cup 積によって定義される写像とする. このとき,  $f : H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))^{\Gamma} \rightarrow H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\Gamma}$  を合成

$$H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))^{\Gamma} \rightarrow H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r)) \rightarrow H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\Gamma}$$

によって定義される準同型とすれば図式

$$\begin{array}{ccc} H^{2r}(X, \mathbb{Z}_l(r)) & \xrightarrow{\epsilon_l^{2r}} & H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_l(r)) \\ j \downarrow & & \uparrow j \\ H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))^{\Gamma} & \xrightarrow{f} & H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\Gamma} \end{array}$$

は可換.

可換群の準同型  $\beta : M \rightarrow N$  に対して  $\text{Ker } \beta$ ,  $\text{Coker } \beta$  が有限群であるとき,  $z(\beta) = |\text{Ker } \beta|/|\text{Coker } \beta|$  と定義する.

定理 3.4.(Artin-Tate 公式 II) 各  $l$  に対して  $\Phi^*$  の  $H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l(r))$  上への作用が半単純で

あると仮定する。このとき,

$$\left| \prod_{\alpha \neq q^r} \left(1 - \frac{\alpha}{q^r}\right) \right|_l^{-1} = \begin{cases} |\det(\varepsilon_l^{2r})|_l^{-1} \frac{|H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}|}{|H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^\Gamma| |H^{2r+1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^\Gamma|} & (l \neq p) \\ q^{-\sum_{j=0}^{r-1} (r-j) h_W^{j, i-j}(X)} |\det(\varepsilon_p^{2r})|_p^{-1} \frac{|H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_p(r))_{\text{tors}}|}{|\underline{D}^{2r}(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}^\Gamma| |\underline{D}^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}^\Gamma|} & (l = p) \end{cases}$$

が成立する。

証.  $\Phi^*$  の  $H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Q}_l(r))$  上への作用が半単純なので,  $z(f)$  が定義され,

$$z(\varepsilon_l^{2r}) = z(i)z(f)z(j)$$

が成立する。ここで,

$$\begin{aligned} z(\varepsilon_l^{2r}) &= |\det(\varepsilon_l^{2r})|_l^{-1} \frac{|H^{2r}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}|}{|H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}|} \\ z(j) &= |H^{2r-1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_\Gamma|, \\ z(i) &= \frac{1}{|H^{2r+1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))^\Gamma|} \end{aligned}$$

したがって,

$$z(f)^{-1} = z(\varepsilon_l^{2r})^{-1} z(i)z(j) = |\det(\varepsilon_l^{2r})|_l^{-1} \frac{|H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}|}{|H^{2r}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}|} \frac{|H^{2r-1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_\Gamma|}{|H^{2r+1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))^\Gamma|}$$

ここで, 補題 2.7, 補題 2.8 から

$$\begin{aligned} |H^{2r+1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))^\Gamma| &= |H^{2r+1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^\Gamma|, \\ |H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}| &= \frac{|H^{2r-1}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}|}{|H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^\Gamma|} \end{aligned}$$

したがって,

$$z(f)^{-1} = |\det(\varepsilon_l^{2r})|_l^{-1} \frac{|H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}|}{|H^{2r}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^\Gamma| |H^{2r+1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))^\Gamma|}$$

$l \neq p$  のとき,

$$z(f) = \left| \prod_{\alpha \neq q^r} \left(1 - \frac{\alpha}{q^r}\right) \right|_l$$

に注意して結論を得る。  $l = p$  のとき,

$$z(f) = |\underline{U}^{2r}(X, \mathbb{Z}_p(r))(k)| \left| \prod_{\substack{v(\alpha)=r \\ \alpha \neq q^r}} \left(1 - \frac{\alpha}{q^r}\right) \right|_p = q^{T^{r-1, r}(X)} \left| \prod_{\substack{v(\alpha)=r \\ \alpha \neq q^r}} \left(1 - \frac{\alpha}{q^r}\right) \right|_p$$

なので、補題 3.1 と併せて結論を得る。

例 3.5.  $X$  が Abel 多様体あるいは射影空間における smooth complete intersection なら、各  $l \neq p$  に対して  $H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}} = 0$ 。また、 $H^i(X/W)_{\text{tors}} = 0$ 。したがって、 $\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}} = 0$ 。また、 $h^{ij} = h_W^{ij}$ 。これから、Artin-Tate 公式 I, II はそれぞれ

$$|P_i(X; q^{-r})|_l^{-1} = \begin{cases} |H^{i+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}| & (l \neq p) \\ q^{-\sum_{j=0}^{r-1} (r-j) h^{j, i-j}(X)} |H^{i+1}(X, \mathbb{Z}_p(r))_{\text{tors}}| & (l = p) \end{cases}$$

あるいは

$$\left| \prod_{\alpha \neq q^r} \left(1 - \frac{\alpha}{q^r}\right) \right|_l^{-1} = \begin{cases} |\det(\varepsilon_l^{2r})|_l^{-1} |H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}| & (l \neq p) \\ q^{-\sum_{j=0}^{r-1} (r-j) h^{j, i-j}(X)} |\det(\varepsilon_p^{2r})|_p^{-1} |H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_p(r))_{\text{tors}}| & (l = p) \end{cases}$$

となる。

補註 3.6.  $N = 2r$  と仮定する。Poincaré の双対定理から

$$|H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^\Gamma| = |H^{2r+1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}, \Gamma}| = |H^{2r+1}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^\Gamma| \quad (l \neq p)$$

を、logarithmic Hodge-Witt cohomology に対する双対定理から

$$|\underline{D}^{2r}(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}^\Gamma| = |\underline{D}^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}, \Gamma}| = |\underline{D}^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}^\Gamma|$$

を得る。したがって、公式は

$$\left| \prod_{\alpha \neq q^r} \left(1 - \frac{\alpha}{q^r}\right) \right|_l^{-1} = \begin{cases} |\det(\varepsilon_l^{2r})|_l^{-1} \frac{|H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}|}{|H^{2r}(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(r))_{\text{tors}}^\Gamma|^2} & (l \neq p) \\ q^{-\sum_{j=0}^{r-1} (r-j) h_W^{j, i-j}(X)} |\det(\varepsilon_p^{2r})|_p^{-1} \frac{|H^{2r+1}(X, \mathbb{Z}_p(r))_{\text{tors}}|}{|\underline{D}^{2r}(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})_{\text{tors}}^\Gamma|^2} & (l = p) \end{cases}$$

と書き直せる。さらに、Tate 予想が成立すれば、 $\varepsilon_l^{2r}$  は余次元  $r$  の algebraic cycle の intersection form の判別式の  $l$  部分を与える。

例 3.7.  $N = 2$ ,  $r = 1$  とする。このとき、同型

$$\text{NS}(X_{\bar{k}})_{l-\text{tors}} \xrightarrow{\sim} H^2(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_l(1))_{\text{tors}}$$

および

$$H^2(X, \mathbb{G}_m)_{l-\text{cotors}} \xleftarrow{\sim} H^2(X, \mathbb{Q}_l/\mathbb{Z}_l(1))_{\text{cotors}} \xrightarrow{\sim} H^3(X, \mathbb{Z}_l(1))_{\text{tors}}$$

が存在する。また、

$$h_W^{02}(X) = \dim \text{Alb}_{X/k} - h^{01}(X) + h^{02}(X)$$

さらに, Tate 予想が成立するなら,  $H^2(X, \mathbb{G}_m)$  は有限群で,  $\det(\varepsilon_l^2) = \det[\mathrm{NS}(X) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Z}_l]$ .  
以上をまとめて本来の Artin-Tate 公式

$$\prod_{\alpha \neq q} \left(1 - \frac{\alpha}{q}\right) = \pm \frac{1}{q^{\dim \mathrm{Alb}_{X/k} - h^{01}(X) + h^{02}(X)}} \frac{|\det \mathrm{NS}(X)| |H^2(X, \mathbb{G}_m)|}{|\mathrm{NS}(X)_{\mathrm{tors}}|^2}$$

を得る.

**註記 3.8.** 講演では Milne [7] が

$$e^i(r) = T^{r-1, i-r} - \sum_{v(\alpha) < r} (r - v(\alpha)),$$

$$\alpha^r(X) = T^{r-1, r+1} - 2T^{r-1, r} + \sum_{v(\alpha) < r} (r - v(\alpha))$$

によって定義した不変量  $e^i(r)$ ,  $\alpha^r(X)$  が

$$e^i(r) = T^{r-1, i-r}(X) + T^{r-1, i-r+1}(X) - \sum_{j=0}^{r-1} (r-j) h_W^{j, i-j}(X),$$

$$\alpha^r(X) = -2T^{r-1, r}(X) + \sum_{j=0}^{r-1} (r-j) h_W^{j, 2r-j}(X)$$

と表わせることを注意して, Milne の一般化した Artin-Tate 公式をそのまま引用したが, ここでは  $H^i(X_{\bar{k}}, \mathbb{Z}_p(r))$  を  $\underline{D}^i(X, \mathbb{Z}_p(r))(\bar{k})$  で置き換えて幾分簡略な形にした.

**註記 3.9.** [2](Prop.8.4) では 3.5 を,  $X$  が diagonal hypersurface of Hodge-Witt type の場合に示している.

## 4. Diagonal hypersurfaces

4.1.  $N, m$  を整数  $\geq 1$  とする.  $k$  を体とし,  $X$  を

$$c_0 T_0^m + c_1 T_1^m + \cdots + c_{N+1} T_{N+1}^m = 0$$

$(c_0, c_1, \dots, c_{N+1}) \in k^\times$  によって定義される  $\mathbb{P}_k^{N+1}$  の diagonal hypersurface とする.  $c_0 = c_1 = \cdots = c_{N+1} = 1$  なら,  $X$  は次元  $n$ , 次数  $m$  の Fermat 多様体に他ならない.

以下,  $k$  はすべての 1 の  $m$  乗根を含み,  $k$  が標数  $p > 0$  なら  $(m, p) = 1$  と仮定する.  $\mu_m$  によって  $k$  の 1 の  $m$  乗根の群を表わす. 群  $G = (\mu_m)^{n+2}/(\text{diagonal})$  は  $X$  の上に

$$(\zeta_0, \zeta_1, \dots, \zeta_{N+1})(t_0, t_1, \dots, t_{N+1}) = (\zeta_0 t_0, \zeta_1 t_1, \dots, \zeta_{N+1} t_{N+1}).$$

によって作用する.  $G$  の指標群  $\hat{G}$  は

$$\{\mathbf{a} = (a_0, a_1, \dots, a_{N+1}); a_i \in \mathbb{Z}/m\mathbb{Z}, \sum_{i=0}^{N+1} a_i = 0\};$$

に同一視できる.  $(\mathbb{Z}/m\mathbb{Z})^\times$  の  $\hat{G}$  の上への作用を

$$ta = (ta_0, \dots, ta_{N+1}) \in \hat{G}$$

で定義する.  $\bar{\mathbb{Q}}$  における 1 の  $m$  乗根  $\zeta_m$  を一つ固定する.  $a = (a_0, \dots, a_{N+1}) \in \hat{G}$  の  $(\mathbb{Z}/m\mathbb{Z})^\times$  の作用による軌道  $A$  に対して  $G$  の  $\mathbb{Q}$  指標  $\chi_A$  を

$$\chi_A(g) = \frac{1}{m^{n+1}} \sum_{g \in G} \text{Tr}_{\mathbb{Q}(\zeta_m^d)/\mathbb{Q}}(a(g)^{-1})$$

によって定義する. ここで,  $d = \gcd(m, a_0, \dots, a_{n+1})$ . 指標  $\chi_A$  は  $\mathbb{Q}$  既約.

4.2.  $N^r(X_{\bar{k}})$  を  $X_{\bar{k}}$  の上の余次元  $r$  の algebraic cycle の numerical equivalence を法とする群とする.  $N^r(X_{\bar{k}})$  は有限階数の自由  $\mathbb{Z}$  加群. さらに, intersection number によって定義される  $N^r(X_{\bar{k}})$  の上の対称双一次形式は非退化.  $N^r(X)$  によって  $Z^r(X) \rightarrow Z^r(X_{\bar{k}}) \rightarrow N^r(X_{\bar{k}})$  の像を表わす.  $X(N, m)$  によって次元  $N$ , 次数  $m$  の Fermat 多様体を表わす. このとき,

$$(t_0, t_1, \dots, t_{n+1}) \rightarrow (\sqrt[n]{c_0}t_0, \sqrt[n]{c_1}t_1, \dots, \sqrt[n]{c_{n+1}}t_{n+1})$$

は  $X$  から  $X(N, m)$  への,  $G$  の  $X$  あるいは  $X(N, m)$  の上への作用と同変な,  $\bar{k}$  同型を定義する. これから特に同型

$$\left[ N^r(X(N, m)_{\bar{k}}) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Z}\left[\frac{1}{m}\right] \right]^{(\chi_A)} \xrightarrow{\sim} \left[ N^r(X_{\bar{k}}) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Z}\left[\frac{1}{m}\right] \right]^{(\chi_A)}$$

を得る.

**命題 4.3.**  $k$  を体,  $X$  を  $\mathbb{P}_k^{2r+1}$  の次数  $m$  の diagonal hypersurface とする. 同一視

$$\left[ N^r(X_{\bar{k}}) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Z}\left[\frac{1}{m}\right] \right]^{(\chi_A)} = \left[ N^r(X(N, m)_{\bar{k}}) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Z}\left[\frac{1}{m}\right] \right]^{(\chi_A)}$$

の下で

$$\left[ N^r(X) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Z}\left[\frac{1}{m}\right] \right]^{(\chi_A)} = \left[ N^r(X(N, m)) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Z}\left[\frac{1}{m}\right] \right]^{(\chi_A)}$$

または

$$\left[ N^r(X) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Z}\left[\frac{1}{m}\right] \right]^{(\chi_A)} = 0$$

が成立する.

**証.** 実際,  $X$  が  $m$  の巾を割る  $k$  の拡大の上で  $X(N, m)$  に同型であることに注意すればよい.

**系 4.4.**  $k$  を体,  $X$  を  $\mathbb{P}_k^{2r+1}$  の次数  $m$  の diagonal hypersurface とする.  $m$  が素数なら,  $B_n(X) - \text{rk } N^r(X)$  は  $m-1$  で割り切れる.

**命題 4.5.**  $k$  を標数  $p \geq 0$  の完全体,  $X$  を  $\mathbb{P}_k^{2r+1}$  の次数  $m$  の diagonal hypersurface とする.

(1)  $n = 2$ ,

(2)  $n \geq 4$  で  $m$  は  $n + 2$  より小さい素数で割り切れない, あるいは,

(3)  $n \geq 4$  で  $m$  は素数または 4,

と仮定する.  $p = 0$  または  $p \equiv 1 \pmod{m}$  なら,  $\det N^r(X)$  は  $m$  のある巾を割る.

**証.** Fermat 多様体の場合については [12] で示してあるが, 一般の diagonal hypersurface については 4.3 から Fermat 多様体の場合に帰着される.

**補註 4.6.** 命題 4.5 の仮定の下では numerical equivalence と homological equivalence は一致する.

**註記 4.7.** [2](p.8) は  $n = 2r \geq 4$  に対して, Lichtenbaum complex  $\mathbb{Z}(r)$  の存在を仮定して  $m$  が素数で  $k$  が有限体の場合に 4.5 を示している.

## References

- [1] N. Aoki - On some arithmetic problems related to the Hodge cycles on the Fermat varieties. Math. Ann. 266 (1983) 23-54
- [2] F. Gouvêa, N. Yui - Arithmetic of diagonal hypersurfaces over finite fields. Max Planck Institut Preprint MPI 94-36 (1994)
- [3] M. Gros, N. Suwa - Application d'Abel-Jacobi  $p$ -adique et cycles algébriques. Duke Math. J. 57 (1988) 579-613
- [4] L. Illusie - Complexe de de Rham-Witt et cohomologie cristalline. Ann. Sci. Ecole Norm. Sup. 4<sup>e</sup> serie 12 (1979) 501-661
- [5] L. Illusie, M. Raynaud - Les suites spectrales associées au complexe de de Rham-Witt. Publ. Math. IHES 57 (1983) 73-212
- [6] J-S. Milne - On a conjecture of Artin-Tate. Ann. of Math. 102 (1975) 517-533
- [7] J-S. Milne - Values of zeta functions of varieties over finite fields. Amer. J. Math. 108 (1986) 297-360
- [8] T. Shioda - The Hodge conjecture and the Tate conjecture for Fermat varieties. Proc. of Japan Acad. 55 Ser. A (1979) 111-114
- [9] T. Shioda - The Hodge conjecture for Fermat varieties. Math. Ann. 245 (1979) 175-184
- [10] T. Shioda, T. Katsura - On Fermat varieties. Tohoku Math. J. 31 (1979) 97-115
- [11] N. Suwa - Fermat motives and the Artin-Tate formula I, II. Proc. Japan Acad. 67 (1991) 104-107, 135-138
- [12] N. Suwa - Fermat motives and the Artin-Tate formula. Preprint
- [13] J. Tate - Algebraic cycles and poles of zeta functions. Arithmetic algebraic geometry, Harper and Row (1965) 93-110
- [14] J. Tate - Endomorphisms of abelian varieties over finite fields. Invent. Math. 2 (1966) 133-144
- [15] J. Tate - On the conjecture of Birch and Swinnerton-Dyer and a geometric analog. Sémin. Bourbaki exposé 306, in Dix exposés sur la cohomologie des schémas, North-Holland, Amsterdam (1968) 189-214